



看護福祉学研究所・
健康生活科学研究科 Q&A

Q 毎日通学する必要はありますか？

A 履修する科目にもよりますが、毎日授業があるわけではありません。また、Zoom等を使った遠隔授業も積極的に行っていますので、通学の負担を少なくすることができます。

Q 長期履修制度のメリットを教えてください。

A 修士課程なら2年分の学費で3、4年かけて、博士後期課程なら3年分の学費で4、5、6年かけて履修することができます。学費の負担を抑えて、長期間にわたって学べることがメリットです。詳しくは教育推進課へお問い合わせください。

Q 出願書類の「研究計画書」の書き方が分かりません。

A 各専攻とも出願前に、研究計画等について担当教員との事前面談を受けていただけます。事前面談のお申し込みは、担当事務へメールでご連絡ください。
✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

Q 入学前に単位を取ることは可能でしょうか。

A 本学には「科目等履修生制度」があり、この制度を利用して修得した単位は、入学後に修了の要件となる単位として認めることができます。前期は2月頃、後期は8月頃に募集しています。

支援制度

長期履修制度

看護福祉学研究所／健康生活科学研究科

職業を有している等の事情により、2年（後期課程は3年）では履修が困難な場合、2年（同3年）分の授業料で3年または4年（同4年、5年または6年）かけて履修することができます。

ティーチング・アシスタント

看護福祉学研究所

学部の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

フィールドワーク研修旅費助成

看護福祉学研究所

授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

教育訓練給付制度

看護福祉学研究所／健康生活科学研究科

一定の条件（雇用保険上）を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割（上限10万円）に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。

リサーチ・アシスタント

健康生活科学研究科

教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成

健康生活科学研究科

研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

入学試験概要

【募集人員】

研究科	課程	専攻	入学定員	学内推薦	一般	社会人	外国人留学生
看護福祉学研究所	修士	看護学	10名	—	10名程度	若干名	若干名
		社会福祉学	6名	—	6名程度	若干名	若干名
健康生活科学研究科	博士後期	健康生活科学	3名	—	3名		

【試験科目】

研究科	課程	募集区分	英語	専門科目	口述試験	小論文
看護福祉学研究所	修士	一般	○	○	○	
		社会人			○	○
		外国人留学生			○	○
健康生活科学研究科		博士後期	○		○	

試験日程

【第1次募集】

出願期間	令和6年7月24日(水)～7月31日(水)
試験日	令和6年9月1日(日)
合格発表	令和6年9月9日(月)

【第2次募集】

出願期間	令和6年12月18日(水)～令和7年1月6日(月)
試験日	令和7年2月2日(日)
合格発表	令和7年2月10日(月)

入試に関する
お問合せ

教育・学生支援部
教育推進課

〒910-1195
福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6012
E-mail : kyouiku@fpu.ac.jp
URL <https://www.fpu.ac.jp/>

大学院入試に関する詳細はウェブサイトをご確認ください。

【永平寺キャンパス】

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6011

〈バス〉

京福バス福井駅西口バスターミナル大学病院線
「県立大学」下車（所要時間約40分）

〈乗用車〉

福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北ICより約10分



Graduate School of
Nursing and Social Welfare Sciences
Graduate School of
Health and Human Life Sciences

看護福祉学研究所

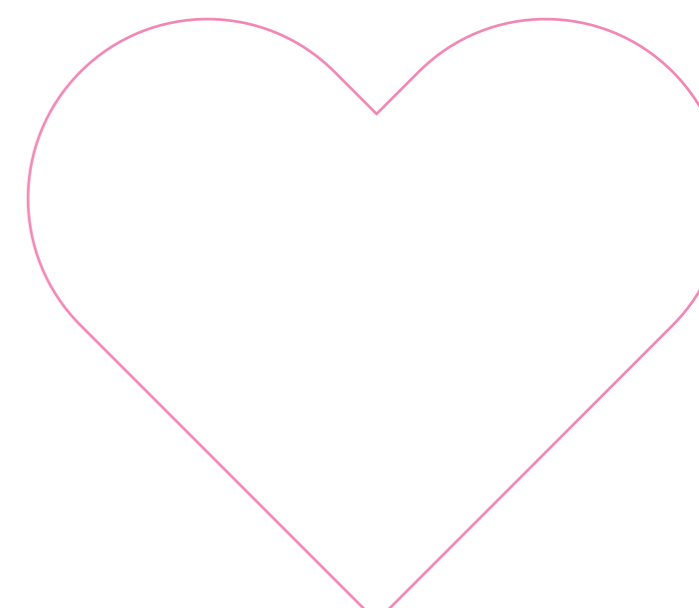
看護学専攻／社会福祉学専攻（修士課程）

Graduate School of Nursing and Social Welfare Sciences

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻（博士後期課程）

Graduate School of Health and Human Life Sciences



看護学専攻

Major in Nursing Science

詳細は
ホームページへ



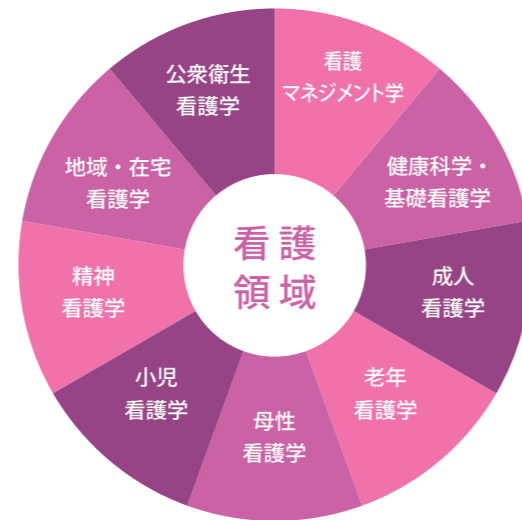
質の高い包括的なケアを目指して

- 1 看護学専攻は看護マネジメント学、健康科学・基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学の9領域を設けています。
- 2 看護マネジメント学領域は日本看護協会の認定看護管理者審査要件を満たしています。
- 3 養護教諭一種免許状を有している人は、「養護教諭専修免許状」を取得できます。

取得できる学位 ▶ 修士（看護学）

■教育目標

- ▶環境の変化に伴い多様化するヘルスケアニーズに応じて発展的・創造的に看護を実践する能力を養成する。
- ▶人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づく質の高い看護を提供する能力を養成する。
- ▶看護学発展の長期的展望に立ち、看護実践上の問題や課題の解決に向けた研究能力を養成する。
- ▶保健・医療・福祉分野の専門職や他職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を養成する。
- ▶ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を養成する。



■カリキュラム

▷ 共通科目

精神健康学特論
環境保健学特論

保健・福祉研究方法論
コミュニケーション特論

▷ 看護学専攻共通科目

看護理論
看護教育論

看護研究方法論
看護政策論

看護倫理学
看護管理論

▽ 専攻科目

看護マネジメント学

看護マネジメント学特論
看護マネジメント学演習
看護マネジメント学特別研究

成人看護学

成人看護学特論
成人看護学演習
成人看護学特別研究

母性看護学

母性看護学特論
母性看護学演習
母性看護学特別研究

精神看護学

精神看護学特論
精神看護学演習
精神看護学特別研究

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学特論
公衆衛生看護学演習
公衆衛生看護学特別研究

健康科学・基礎看護学

基礎看護学特論
基礎看護学演習
基礎看護学特別研究

老年看護学

老年看護学特論
老年看護学演習
老年看護学特別研究

小児看護学

小児看護学特論
小児看護学演習
小児看護学特別研究

地域・在宅看護学

地域・在宅看護学特論
地域・在宅看護学演習
地域・在宅看護学特別研究

▽ 経済・経営学研究科の授業科目

経済理論
日本経済史特論

ワークショップ(地方行政論)
現代企業論

人的資源管理特論

※ 2024年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。

受験を検討されている方への
お願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

看護学専攻の履修モデル

※看護マネジメント学領域を選択した場合

1年次履修科目

共通科目	保健・福祉研究方法論	2単位
専門科目	看護教育論	2単位
	看護研究方法論	2単位
	看護政策論	2単位
	看護管理論	2単位
	成人・老年保健学特論	4単位
	看護マネジメント特論	4単位
看護マネジメント演習	2単位	

2年次履修科目

特別研究科目	看護マネジメント学特別研究	10単位
		計 10単位

2年間で32単位修得

修士論文審査合格

修士(看護学)取得

計 22 単位

▷長期履修制度について

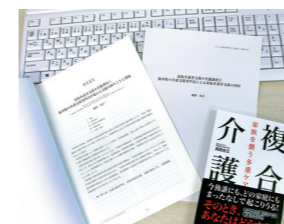
職業を有している等の事情により、2年では履修が困難な場合、2年分の授業料で3年または4年かけて履修することができます。

修士論文タイトル（2019年度～2023年度）

- 看護師長のレジリエンスとコミュニケーションスキルとの関連
- 看護師経験を有する地域包括支援センターの看護職が行う一人暮らしの慢性心不全をもつ認知症高齢者への支援
- コロナ禍に入職した新人看護師のストレス対処力とリアリティショックとの関連
- 中堅看護師が副看護師長という新たな役割に向かう心理のプロセス
- 在宅血液透析助者のストレス認知的評価とストレス反応
- 医療的ケアの手法獲得後に看護介入を受けて生じた母親の認識
- 中小規模病院における医師・看護師間の連携と退院支援実践との関連

- PNSにおいて新人看護師に関わる看護師の教育的役割遂行とバーンアウトとの関連
- 病棟看護師がとらえた師長の支援内容と組織風土との関連
- 臨床における看護職のパワーハラスメントと職務満足との関連
- 看護部長が看護師長への支援を通して自己成長を実感した対応の内容
- 介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景に関する研究
- 就労妊婦の働きやすさに関連する要因

看護学専攻 研究紹介



なりた みつえ
成田 光江 准教授

要支援者・児とその家族や多様な支援者を支える地域包括支援

私は支援を必要とする全年代・全領域の要支援者・児やその家族、要支援者や家族の生活を支える多様な支援者への地域支援に関する研究をしています。

少子高齢化・人口減少が進む我が国は、晩婚・晩産化、未婚化・核家族化の進展や経済情勢の悪化等により、地域の生活環境は激変しています。同時に個人・世帯・家族が抱える課題も多様化しています。特に、子育てや介護、疾患や障害、貧困や暴力等、多くの課題を同時に抱える「多重ケア」の場合、多様な支援機関・専門職との連携や、地域の資源を包括する「地域包括支援」と「地域連携支援システムづくり」が不可欠です。

これらの研究成果をもとに、自治体や地域の多機関・多職種とちからを合わせ、課題を解決・改善するための地域実践として展開するなど、研究と地域貢献を一体的に進めています。

看護学専攻 在学生インタビュー



まつい つよし
松井 毅 さん

合同会社 Tobe Canbe
居宅介護支援事業所
ケアマネ事業所 三万一心
管理者

社会人が学びやすい環境で「実践者かつ研究者」として学ぶ

介護支援専門員として、利用者の家族の支援についてさらに学びたいと思い大学院に進学しました。看護師資格を保持していなくても受験可能なこと、授業やゼミがWEB開催のため遠方からでも受講できること、授業やゼミがWEB開催のため活用できるなど仕事（実践）と学問（研究）の両立が可能で社会人が学びやすい環境であることが進学を決めた理由です。

大学院では、中山間地域に住む介護を必要とする一人暮らしの高齢者を支える家族についての現状と課題について研究しています。研究成果は、地域の介護支援専門員や行政機関に還元し、地域の課題解決に向けて取り組んでいけたらと考えています。

福井県立大学は社会人が学ぶのにもってこいの環境です。あなたも「実践者かつ研究者」として、一緒に学びませんか。

社会福祉学専攻

Major in Social Welfare Science

詳細は
ホームページへ



尊厳ある生のために

- 1 社会福祉学専攻は、北陸で最初に開設された福祉系大学院です。
- 2 毎年行われる研究報告ワークショップや中間発表会で研究のブラッシュアップを図ります。
- 3 修了生は、福祉・保健・医療・教育・司法・労働等の多方面の分野で全国的に活躍しています。

取得できる学位 ▶ 修士（社会福祉学）

■教育目標

- ▶個人と社会のウェルビーイングを高めるための社会福祉実践・社会福祉政策の価値を探究する能力を養成する。
- ▶自由・平等・友愛の民主主義思想と共生の理念に基づいた研究能力を養成する。
- ▶複雑・複合化した生活課題の解決のための多角的視点での社会福祉学研究を行う能力を養成する。
- ▶個々人の生活の質の向上と社会の健全な発展に寄与する研究能力を養成する。
- ▶多様で複雑化した個別ニーズに対応できる実践能力を養成する。
- ▶地域における共生社会の発展に資する実践能力を養成する。



■カリキュラム

▷ 共通科目

精神健康学特論	保健・福祉研究方法論
環境保健学特論	コミュニケーション特論

▷ 専攻科目

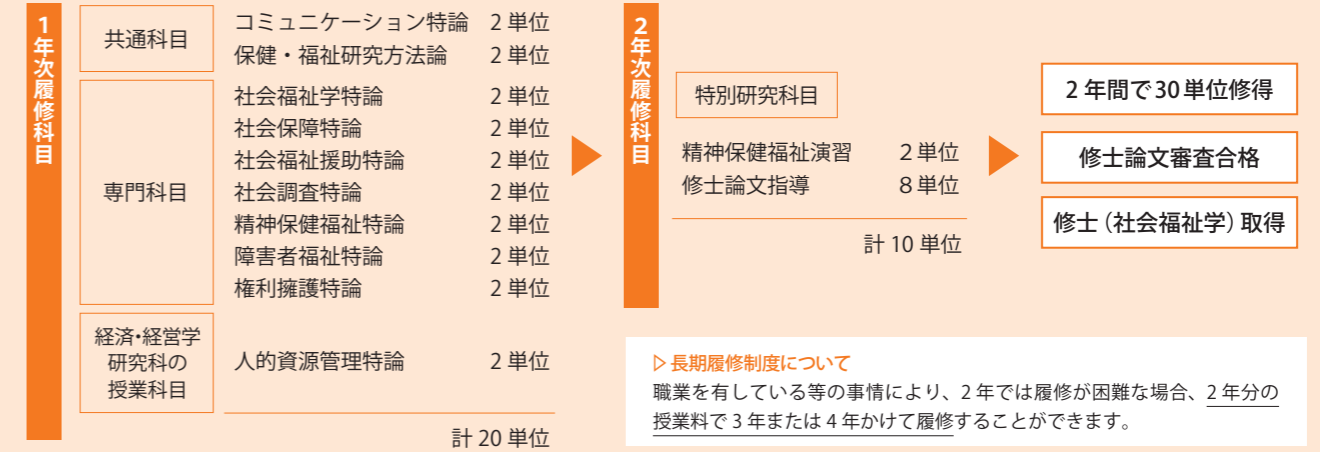
社会福祉学特論	社会福祉援助特論（集団）	精神保健学特論	権利擁護特論	学校ソーシャルワーク特論
社会福祉学演習	社会福祉援助演習（集団）	精神保健学演習	権利擁護演習	福祉教育特論
社会政策特論	社会福祉援助特論（地域）	児童・家庭福祉特論	国際福祉特論	修士論文指導
社会政策演習	社会福祉援助演習（地域）	児童・家庭福祉演習	国際福祉演習	
社会保障特論	社会調査特論	高齢者福祉特論	医療人類学特論	
社会保障演習	社会調査演習	高齢者福祉演習	医療人類学演習	
社会福祉援助特論（個別）	精神保健福祉特論	障害者福祉特論	社会福祉管理・経営特論	
社会福祉援助演習（個別）	精神保健福祉演習	障害者福祉演習	社会福祉環境特論	

▷ 経済・経営学研究科の授業科目

経済理論	ワークショップ（地方行政論）	人的資源管理特論
日本経済史特論	現代企業論	

※ 2024年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。

社会福祉学専攻の履修モデル ※精神保健福祉を選択した場合

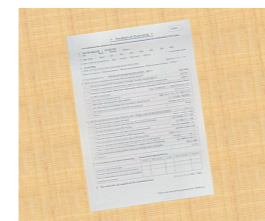


▷ 長期履修制度について
職業を有している等の事情により、2年では履修が困難な場合、2年分の授業料で3年または4年かけて履修することができます。

修士論文タイトル（2019年度～2023年度）

- 介護保険制度に対する当事者参画に関する一考察
— 認知症の人と家族の会の提言・要望を通して—
- 知的障害者がグループホームから一人暮らし等に移行するまでの意思決定支援のあり方に関する研究
- スクールソーシャルワーカーの有機的連携に関する一考察
— 学校内居場所カフェの現状と課題—
- 社会福祉協議会における発展・強化計画策定プロセスへの参画の効果と課題の一考察
- ハンセン病者へのキリスト教伝道
— 療養所教会の成り立ちと長島聖書学舎を中心に—
- 保育所において医療的ケア児に保育を提供するためのプロセスに関する研究
- 不妊夫婦の家族形成
— 産婦人科医の取組む「新生児特別養子縁組」を中心として—
- ルドルフ・シュタイナーの理論と実践についての一考察
- 小児がん罹患児への病棟での遊びを用いた精神的なアプローチ実践
- 聖バルミナ・ミッションの衰退と解散に関する研究

社会福祉学専攻 研究紹介



いまい ともみ
今井 朋実 教授

HIVを持つ人への ソーシャルワーク

私の主な研究領域は、医療と介護が密接に関係しています。キーワードは、疾病・介護（ケア）・障害・差別・偏見・家族支援・エンパワメント・認知症・HIV・差別や偏見・障害者や高齢者の自立支援・高齢者の看取りです。

このなかでも、「HIV」はかつて奇病、不治の病と考えられていましたが、現在では慢性疾患として位置付けられ、劇的に治療法が確立した疾患の一つです。それから内部障害として身体障害者手帳を取得できることや、広く強迫性障害や統合失調症などの精神科領域の疾患とも関連することもありことから、障害者の領域の課題としても考えられています。また、これらの課題とともに、マイノリティ（LGBTQ・外国人など）への配慮、家族や周囲へのカミングアウトの困難性、感染経路から起因する差別・偏見・誤解など、広範囲に渡る支援が必要になるため、それらの複雑な背景があるからこそ、ソーシャルワークを必要とするものであると捉えています。研究では、外国人を対象として、アンケートによる調査を実施しています。

社会福祉学専攻 在学生インタビュー



きなだ とうこ
眞田 瞳子 さん

社会福祉法人共友会
グループホームやたの介護福祉士

介護現場のサービス向上と 働きやすさの両立を目指して

介護福祉士として認知症グループホームで働く中で、利用者の方への対応に思い悩むことが多く、この悩みは現場の介護職員が共通して抱えている悩みではないかと考えました。大学でも福祉分野を専攻していましたが、もう一度社会福祉について一から学び直しをすることによって、現在抱えている悩みを解決できるのではないかと思います。

職員の働きやすさと介護サービスの質は比例関係にあると思います。研究を通して、今後は、利用者の方が人生の最後まで自分らしく過ごすことのできるような介護サービスづくり、そしてサービスの質の向上のために、どのような職場環境づくりが必要なのか、学んだことを現場に還元していきたいと考えています。

進学を決めるにあたって、迷いや葛藤もあると思いますが、大学院に進学したからこそその学びや人と出会いは将来に必ずつながると思います。ぜひ一緒に学びを共有しましょう。

受験を検討されている方への
お願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

健康生活科学専攻

Major in Health and Human Life Sciences

詳細は
ホームページへ



設置の趣旨

社会の多様化、人口減少、超少子高齢化において、人々は様々な健康上の課題や生活上の課題に直面し、個人・世帯レベルから家族・自治体、国・都道府県レベルまでの対策が求められています。本研究科は、看護学と社会福祉学が融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に「健康生活科学」研究を行い、「ウェル・ビーイング(健康と幸福)」に向けた共生社会」を目指すために設置されました。

健康生活科学研究科で養成する人材

- ▶健康から生活までの多様な課題を包括的に探究できる自律的・国際的な研究者
- ▶基盤となる専門的知識・技術と高い見識を兼ね備え、地域にも貢献できる大学教員や行政担当者

取得できる学位 ▶ 博士(健康生活科学)

■カリキュラム

▶ 共通科目

健康生活科学特論 研究倫理特論

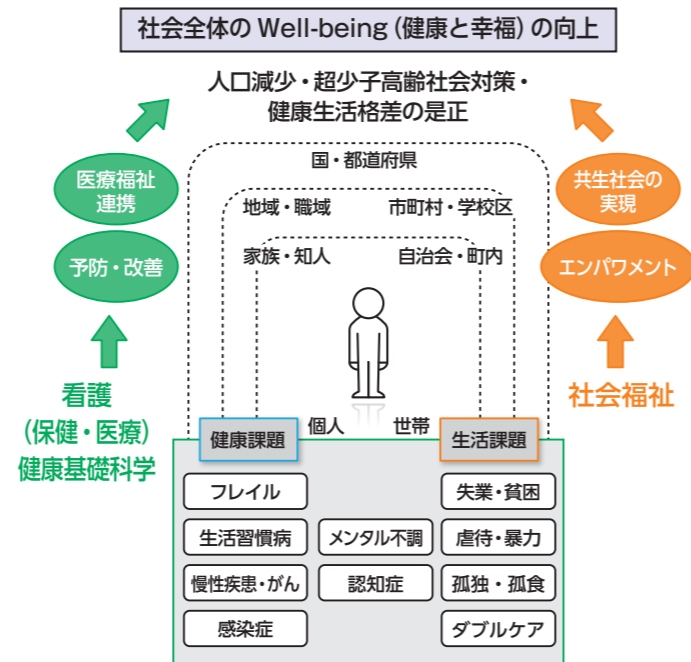
▶ 専攻科目

健康基礎科学領域	健康生活探究領域
健康科学特論	健康福祉学特論
看護実践開発演習	保健医療福祉演習
健康バイオマーカー演習	地域包括ケア演習

▶ 特別研究科目(博士論文指導)

健康基礎科学特別研究 健康生活探究特別研究

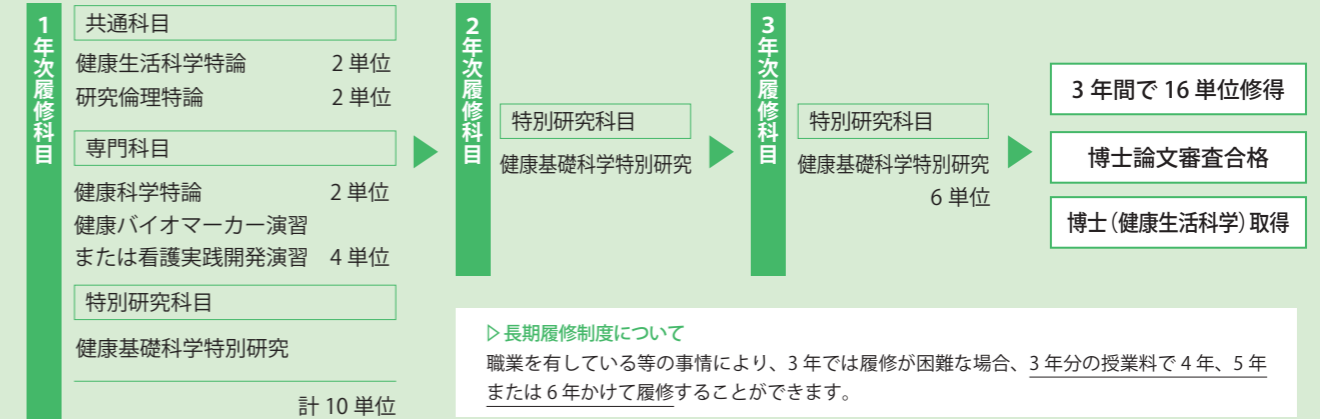
※ 2024年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。



学位別 階層イメージ

学位	研究科	専攻
博士	健康生活科学研究科(3年) [博士後期課程]	健康生活科学専攻
修士	看護福祉学研究科(2年) [修士課程]	看護学専攻 社会福祉学専攻

健康生活科学専攻の履修モデル



▶長期履修制度について
職業を有している等の事情により、3年では履修が困難な場合、3年分の授業料で4年、5年または6年かけて履修することができます。

健康生活科学専攻 研究紹介



くめ まさよ
久米 真代

認知症高齢者が安心して入院生活を送れるための基本的ケア

私は身体疾患の悪化により入院している認知症高齢者の方が、もっておられる力を使いながら安全に治療を受け、安楽に入院生活を送り、1日でも早く希望する場所へ退院できる看護を創ることを考えて研究に取り組んでいます。個別性が重視されやすい分野ですが、認知症高齢者や看護師の方々が示してくださる現象をひも解くと、共通したケアを見つけることができます。これまでにがん疾患に罹患した認知症高齢者の痛みに気づく尺度の開発、血液透析を受ける認知症高齢者の透析時間別のケアなどを考えてきました。明らかにしてきたことは小さなことです。しかし、基本的なケアがあることで、経験年数や力量による差が減り、予測した看護ができます。基本的なケアを誰もができる環境が整うと、個性のあるケアをしたい気持ちが出てきます。当たり前、仕方がないと流されている現象を立ち止まって一緒に考え深めてくれる仲間を募集中です。

健康生活科学専攻 在学生インタビュー



しもかわ こうそう
下川 幸蔵 さん
福井医療大学 専任教員
(作業療法士)

精神障がい者の生活支援に研究成果を還元したい

作業療法士として20年経験し、多職種連携の重要性を実感しました。「ウェル・ビーイングに向けた共生社会」の実現に向けて様々な視点を学ぶことによって、地域に貢献したいと思い進学を決意しました。大学院では、健康な生活を支えるための方法を多方面から科学的に学んでいます。研究では、精神障がい者の地域生活支援に焦点を当て、症状変化や不調をいち早く気付くようなマーカーを模索しています。当研究科は看護学と社会福祉学が融合し、対象者の健康な生活を多面的に捉え、生活課題と効果的な支援方法を学ぶことができます。先生方も各分野の第一人者ですので、学びの質・量とも申し分ないと感じています。研究成果は精神障がい者の生活支援のために還元したいと考えています。対象者を取り巻くコミュニティで、作業療法士として多職種と協業しながら、どのように支援を進めるのが効果的かを考える幅が広がると思っています。

健康生活科学研究科 特別講義

英国カーディフ大学から、ディケオス・サカロリア先生を招聘し、障がいのある人の医療へのアクセス(適切な医療を受けること)について、チリ、英国、ギリシャの実情とWHO欧州地域の政策枠組みについて解説していただきました。ディスカッションでは、障がいの慢性性(chronicity)と予期(anticipation)という現象について、参加者のみなさんと議論しました。



受験を検討されている方へのお願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

研究科長からのメッセージ

健康から生活を対象とするボーダーレスな教育と研究

「看護福祉学研究科(修士課程)」は、看護学専攻と社会福祉学専攻からなり、将来の高度専門職・教育者のリーダーを育成します。それぞれの専門科目を学修できるボーダーレスなカリキュラムを組んでいます。また、VR(バーチャルリアリティ)などのDX(デジタルトランスフォーメーション)の利用や他専門領域との融合研究も推進しています。「健康生活科学研究科(博士後期課程)」は2023年(令和5年)4月に開設しました。本研究科では、保健・医療を担う看護学と福祉を担う社会福祉学が融合した「健康生活科学」という新学問領域を立ち上げ、「Well-being(健康と幸福)」に向けた共生社会」を目指す研究推進と研究者育成を行っています。福井県内では初の看護系博士後期課程です。健康基礎科学、看護学から社会福祉学まで様々な研究領域を専門とする教員(博士)がそろい、国際的研究も行っています。昨年度5名(定員3名)、今年度は4名が入学しました。両研究科とも、Web遠隔による講義・研究指導体制を整え、社会人学生でも仕事との両立が可能です。入学をお待ちしています。一緒に学び研究をしましょう。



看護福祉学研究科長
健康生活科学研究科長
よねだ まこと
米田 誠 博士(医学)

看護福祉学研究所

看護学専攻 (修士課程)

健康科学・基礎看護学領域

教授
おしま ちか
大島 千佳

基礎看護学
看護技術のエビデンス探求
(リンパ浮腫ケア、睡眠を整えるケア)

教授
かさい きょうこ
笠井 恭子

基礎看護学
自律神経や睡眠を整えるケア
の開発に関する研究

准教授
あずま ともひろ
東 知宏

基礎看護学
感染管理、特に手指衛生に関する研究

准教授
うえき れいこ
上木 礼子

基礎看護学
地域の医療施設における在住
外国人への対応に関する研究

研究科長/特命教授
よねだ まこと
米田 誠

認知症・神経難病・老化
ミトコンドリアと活性酸素の
側面からの生理・病態の解析

特命教授
むらかみ しげる
村上 茂

薬理学・食品機能学
農産物や海藻など食素材の健康
長寿との関連研究、タウリンの
生理・薬理作用の解明

教授
みずたに てつや
水谷 哲也

内分泌学・生殖科学
卵巣や胎盤の機能調節メカニ
ズムに関する研究

教授
ひらい たかよし
平井 一芳

公衆衛生学・疫学
地域や職域をフィールドとし
た予防医学、健康科学に関する
調査研究

成人看護学領域

教授
ありた ひろみ
有田 広美

成人看護学
手術を受けた患者の睡眠に関
する研究、がん看護および慢
性看護に関する研究

准教授
くまがい み
熊谷あゆ美

成人急性看護学
周術期患者の創傷予防ケアに
関する研究

老年看護学領域

教授
くめ まさよ
久米 真代

老年看護学
身体疾患をもつ認知症高齢者
の看護ケアに関する研究

母性看護学領域

教授
いわたに くみこ
岩谷久美子

母子看護学
母性看護や助産の安全管理に
関する研究や教育に関する研究

小児看護学領域

准教授
かねがす ひとみ
金粕 仁美

小児看護学
妊娠期から育児期の母親のメン
タルヘルス、ボンディング
障害に関する研究

看護マネジメント学領域

笠井恭子教授 大島千佳教授 平井一芳教授
*健康科学・基礎看護学領域に掲載

※看護マネジメント学領域の指導教員は、院生の研究テーマを
考慮し、看護学専攻の教員の中から決定することができます。



精神看護学領域

教授
かわむら
川村みどり

精神看護学
地域で暮らす精神障害を持つ
人へのケアに関する研究

准教授
はせがわ まこと
長谷川小真子

精神看護学
精神科看護師のフィジカルア
セスメント能力向上に関する
研究

地域・在宅看護学領域

准教授
ふしょう さなえ
普照 早苗

在宅看護学
退院支援・訪問看護を中心と
した在宅看護及び家族看護、
看護教育に関する研究

准教授
うめづち かこ
梅津千香子

地域看護学・在宅看護学
在宅療養移行支援、意思決定
支援、エンドオブライフケア、
医療介護連携に関する研究

准教授
なりた みつえ
成田 光江

医療福祉学
要支援者・児や家族、多様な
支援者を支える地域包括支援
に関する研究

公衆衛生看護学領域

教授
なかたに よしみ
中谷 芳美

公衆衛生看護学
介護予防を推進する地域包括
ケアシステム構築を目指した
研究

教授
こじま あみ
小島 亜未

公衆衛生看護学
食行動など健康行動を促す保
健指導プログラムの評価に関
する研究

社会福祉学専攻 (修士課程)

教授
いまい ともみ
今井 朋実

ソーシャルワーク
若年性認知症や HIV など制度の
狭間にある福祉ニーズにおける
援助モデルについての検討

教授
さの おさむ
佐野 治

地域福祉論、福祉計画論
福祉行政計画 (および社協計
画) の立案と策定、CSW の理
論と実践手法に関する研究

教授
たなかゆみこ
田中裕美子

社会政策、非正規雇用、ジェンダー
労働市場におけるパートタイム
労働を中心とした既婚女性の就
業選択に関する実証的分析

教授
つかもと としゆき
塚本 利幸

社会調査
福井の地域特性と、健康や男
女共同参画の関係を、統計学
的に研究

教授
のりき さこん
法木 左近

保健・福祉研究方法論
真菌症の診断に関する研究、
オートプシーイメージング
(Ai) に関する研究

教授
みちのぶりょうこ
道信 良子

医療人類学へ以てコミュニケーション質的研究法
子どもの意思決定、保健・医
療・福祉分野のエスノグラ
フィに関する研究

教授
やまぐちりえこ
山口理恵子

権利擁護と民法総則、成年後見制度
日常生活自立支援事業や成年後
見制度を中心に判断能力が不
十分な人々の支援に関する研究

教授
よしひろ じゅんいち
吉弘 淳一

児童・家庭福祉
子どもを取り巻く環境からの
視点で子どもの理解に関する
研究

教授
おかだ たかし
岡田 隆志

精神保健福祉ソーシャルワーク
自治体における精神保健福祉
施策・活動、ソーシャルワ
ーカーの現任教育に関する研究

准教授
さかくち まさひろ
坂口 昌宏

社会保障・生活保護
地域共生社会を実現するた
めの社会福祉法制度の構築に
向けた研究

准教授
はたけなか こう
畠中 耕

社会福祉史
近代日本における地域の社会
福祉の歴史を研究

准教授
ふなき しんすけ
舟木 紳介

ソーシャルワーク
外国人定住支援におけるデ
ジタルメディアの活用に関する
研究

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻 (博士後期課程)

健康基礎科学特別研究

研究科長
よねだ まこと
米田 誠

- 老化・疾病・フレイルなどにおける活性酸素のかかりを評価する
- 甲状腺疾患における精神神経症状について解析する

むらかみ しげる
村上 茂

- 農産物や海藻など食素材の健康長寿との関連研究
- タウリンの生理・薬理作用の解明

みずたに てつや
水谷 哲也

- 胎盤の分化調節メカニズムの解明
- 産科疾患に対する新たなバイオマーカーの開発

おしま ちか
大島 千佳

- 睡眠改善ケアのエビデンス探求
- 睡眠環境に関する研究
- 腸内環境に関する研究

健康生活探究特別研究

みちのぶりょうこ
道信 良子

- 小児がんの子どもの医療における意思決定
- 障がいのある子どもの生涯学習と社会参加
- ウェルビーイングの医療人類学

くめ まさよ
久米 真代

- 認知症高齢者の入院・入所による環境変化への適応を促進する看護研究
- 身体疾患の治療中の認知症高齢者の苦痛緩和に関する看護研究

たなかゆみこ
田中裕美子

- 雇用問題をめぐる社会政策に関する研究
- パートタイム労働・生活時間とジェンダーに関する研究
- 既婚女性の就業選択に関する研究

授業担当

こじま あみ
小島 亜未

- 地域包括ケア演習

さかくち まさひろ
坂口 昌宏

- 保健医療福祉演習
- 地域包括ケア演習

学外兼任
(放送大学大学院教授)
やまうち とよあき
山内 豊明

- 看護実践開発演習

のりき さこん
法木 左近

- 白癬の診断
- 検体採取のための新しい機器の開発
- 患者自身による白癬検査の問題点

かさい きょうこ
笠井 恭子

- 心身の不調を改善する生活習慣に関する研究
- 自律神経や睡眠を整えるケアの開発に関する研究

かわむら
川村みどり

- 精神障害をもつ人による看護ケアへの評価
- 精神障害リハビリテーションに関する看護ケアの開発
- 精神障害をもつ人の回復を支える多職種連携

くまがい み
熊谷あゆ美

- 創傷の発生と皮膚軟部組織に加わる外力や応力との関係に関する基礎研究
- 創傷予防のためのマットレスの開発研究

ひらい たかよし
平井 一芳

- 地域高齢者のフレイルとその関連要因 (運動、栄養、社会活動など)
- 小学生の身体活動と健康・体力
- 職域におけるメタボリックシンドローム対策

ありた ひろみ
有田 広美

- 治療を受けるがんおよび慢性疾患患者家族に関する研究
- 手術を受けた患者の睡眠、せん妄に関する研究

おかだ たかし
岡田 隆志

- 精神障害者の地域生活支援に関する研究
- 地方自治体における精神保健福祉施策に関する研究
- ソーシャルワーカーの現任教育に関する研究

うめづち かこ
梅津千香子

- 地域包括ケア演習

学内兼任
(経済・経営学研究所教授)
ふじの ひでのり
藤野 秀則

- 健康科学特論

■各教員の研究者情報は researchmap
をご覧ください。(教員名を入力して検索)



福井県立大学 教育・学生支援部 教育推進課
〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1
TEL 0776-61-6000 (代) FAX 0776-61-6012
E-mail : kyouiku@fpu.ac.jp URL : https://www.fpu.ac.jp/